

修士設計作成マニュアル2010

東海大学工学研究科建築学専攻計画系

共同制作 : **個人制作を原則**とするが、指導教員の承認を得た上で3人までの共同設計を認める。
但し、成果物において分担を明確にし、各人で評価できるものとなっていることが望ましい。

用紙 : 大きさ : **A1版を基準サイズ**とする。
: 紙質 : ケント紙等の厚紙にインキング、コピー、出力されたもの。
スチレンボードなどに貼り、パネル化されていることが望ましい。

提出内容 : 提出物は、下記のような内容が表現されていること。
但し、内容によってこれらの表現が相応しくない場合は、指導教員の指導に従うこと。

- ① 設計概要、趣旨
- ② 説明図、ダイアグラム
- ③ 案内図
- ④ 配置図（屋根伏図、1階平面図、案内図と兼用していても良い）
- ⑤ 各階平面図（1階平面図は、外構図を兼用）
- ⑥ 立面図（2面以上）
- ⑦ 断面図（2面以上）
- ⑧ 詳細図（1/20、1/50）
- ⑨ 透視図、アクソノメトリック等（内観外観各1面以上、CG、模型写真可）
- ⑩ 模型
- ⑪ 梗概（設計内容をまとめたレジメ、A3版×1、採点用資料、梗概集に収録）

以上（梗概を除く）を、**建築図面A1×8枚以上**に採点しやすい状態で表現する。
複数部に分かれる場合は、順番を分かりやすく明記すること。

インターネットからの画像など著作権に触れるもので構成されているパネルや、提案内容と関係のない画像などで構成されたパネルは、失格となる場合があるので注意すること。

図面表現 : 使用する言語は日本語。英語その他言語を併記することは可。
室名は、図中に記入（日本語）する。記号による表現は不可。
スケールは、1：100を標準とする。（その他は指導教員の承認を得ること）
表側には、学籍番号・名前・図面の通し番号・図面名称・縮尺などを分かりやすくレイアウトの上記入する。

展示 : 与えられたスペースに模型・図面などを、採点しやすくプレゼンテーションする。

中間提出 : **2010年10月29日（金）13:00～13:25** H棟2階建築学科事務室
A3版用紙1枚に、修士設計テーマ・学籍番号・氏名・指導教員名・設計概要などを記載した**設計梗概**を提出する。
中間発表時に、**A1サイズ程度のスタディー模型**を提出し、プレゼンテーションする。
また、修士設計タイトル（仮）を指導教員へ提出すること。

提出時に、遅刻・未提出・枚数不足など、未完成と判断された場合は中間発表ができない。
（但し、指導教員の判断で、設計は適宜継続できるものとし、最終提出時に再度審議される）

中間発表 : **2010年11月9日（火）13:25～**（予定）（計画系修士論文、修士設計）
論文1題につき、**発表5分・質問3分**（予定）

最終提出（予定） : **2011年02月14日（月）13:00～14:30** 12号館5階501製図室(予定)
(14:30までに提出し、提出確認後16:00までにプレゼンテーションをする。)
詳細および梗概提出については別途指示する。
必ず指導教員の確認・了承を得た上で、提出すること。
期限後の提出を認めない。提出期限に遅れた場合は受理せず、指導教員を経由して学科預かりとなり、教室会議の審議対象となる。
提出時に、遅刻・未提出・枚数不足など、未完成と判断された場合は採点対象外となり、再提出後、教室会議の審議対象となる。

発表(予定) : **2011年02月21日（月）** 全員発表 02月21日（月）～24(木) ネクサスホール展示（予定）
最優秀作品には「**MD（東海マスターデザイン）賞**」が与えられる。他にレモンレモン画翠修士制作展など。

修士論文作成マニュアル2010

東海大学工学研究科建築学専攻計画系

研究体制 : **個人で行なうことを原則**とするが、指導教員の承認を得て、3名程度の共同研究を認める。

論文提出要領 : 用紙 : **A4サイズ**の上質紙とする。
 図表や写真を貼付する台紙、折込み資料等を入れる台紙もA4サイズとする。
 大きな図面等資料等を入れる場合もA4サイズに折り込むこと。
 : 枚数 : **50ページ程度以上**とする

論文作成要領 : 論文の内容及び体裁については、以下を満たしたものとする。

- (1) 論文の構成は、表紙/目次/序論/本論/結論/参考文献等、とする。
- (2) 表紙には、論題(必要な場合は副題)、指導教員名、学籍番号、氏名を記載する。
- (3) 表紙及び本文は、横書きとし、原則としてワープロ打ちとする。
- (4) 各ページの余白は、上・下・右は25mm程度、左は30mm程度とする。
- (5) 1ページ行数は30行程度とし、1行文字数は35~40文字程度とする。
- (6) ページ数は、右下に記す。
- (7) 図表・写真等には、図表・写真番号及びタイトルを入れる。
- (8) 補注及び引用文献は、本文該当箇所右肩に1)、2)、3)等の記号で示し、各章又は各節の文末に一括して記載する。
- (9) 参考文献は、論文の文末に一括して掲載する。
- (10) 引用文献・参考文献は、以下のように明記する。
 単行本の場合 : 著者名(訳者名)、書名、(参考・引用ページ)、発行所名、発行年
 雑誌の場合 : 著者名、表題、掲載誌名、巻(号)、(参考・引用ページ)、発行所名、発行年

インターネットからの画像など著作権に触れる図版で出典が明記されていない場合や、提案内容と関係のない図版などで構成された論文は、失格となる場合があるので注意すること。

梗概作成要領 : 別途指示する。中間提出もこの要領に従うこと。

中間提出 : **2010年10月29日(金) 13:00~13:25** H棟2階建築学科事務室
A3版用紙1枚に、下記の内容を記載した**論文梗概**を提出する。提出後研究室前に掲示。
 研究テーマ・学籍番号・氏名・指導教員名・研究の目的・研究の方法・論文の構成(目次、アウトライン等)
 執筆は、別紙「梗概作成要領」に従うこと。提出は紙面のみで、電子投稿は不可。
 また、修士論文タイトル(仮)を指導教員へ提出すること。

提出時に、遅刻・未提出・枚数不足など未完成と判断された場合は中間発表できない。
 (但し、指導教員の判断で、研究は適宜継続できるものとし、最終提出時に再度審議される)

中間発表 : **2010年11月9日(火) 13:25~** (予定) (計画系修士論文、修士設計)
 論文1題につき、**発表5分・質問3分** (予定)

最終提出(予定) : **2011年02月14日(月) 13:00~14:30** 12号館5階51準備室
 詳細および梗概提出については別途指示する。
 必ず指導教員の確認・了承を得た上で、提出すること。
期限後の提出を認めない。提出期限に遅れた場合は受理せず、指導教員を經由して学科預かりとなり、教室会議の審議対象となる。
提出時に、遅刻・未提出・枚数不足など未完成と判断された場合は採点対象外となり、再提出後、教室会議の審議対象となる。

発表(予定) : **2011年02月21日(月)** 全員発表

表彰 : 優秀論文数編には「**東海修士論文賞(計画系)**」が与えられる。この論文は、日本建築学会優秀修士論文賞に応募する資格を持つ。

修士論文・修士設計中間発表マニュアル2010

東海大学工学研究科建築学専攻計画系

修士論文中間提出・発表

中間提出 : **2010年10月29日(金) 13:00~13:25** **H棟2階建築学科事務室**
A3版用紙×1枚に、下記の内容を記載した**論文梗概**を提出する。提出後、研究室前に掲示。
研究テーマ・学籍番号・氏名・指導教員名・
研究の背景・研究の目的・研究の方法（調査・実験概要など）・
研究の進捗状況と今後の計画・論文の構成(目次、アウトライン等)
執筆は、「梗概作成要領」に従うこと。提出は紙面のみで、電子提出は不可。
また、修士論文タイトル（仮）を指導教員へ提出すること。

提出時に、遅刻・未提出・枚数不足など、未完成と判断された場合は中間発表できない。

中間発表 : **2010年11月09日(火) 13:25~(予定)** (計画系修士論文、修士設計)
論文1題につき、**発表5分・質問3分(予定)**

修士設計中間提出・発表

中間提出 : **2010年10月29日(金) 13:00~13:25** **H棟2階建築学科事務室**
A3版用紙×1枚に、下記の内容を記載した**設計梗概**を提出する。提出後、研究室前に掲示。
研究テーマ・学籍番号・氏名・指導教員名・
計画テーマ・計画プログラム概要・設計の方法（コンセプト・手法など）・
設計の進捗状況と今後の計画・設計の構成
設計梗概は、イメージや概念の提示にとどまらず、修士設計として評価に値する計画概要・
必要図面・模型写真などを掲載すること。
また、修士設計タイトル（仮）を指導教員へ提出すること。

提出時に、遅刻・未提出・枚数不足など未完成と判断された場合は中間発表できない。

中間発表 : **2010年11月09日(火) 13:25~(予定)** (計画系修士論文、修士設計)
設計1題につき、**発表5分・質問3分(予定)**
中間発表は、**A1サイズのスタディー模型**を用いたプレゼンテーションとする。
A1の模型がない場合は発表できないので注意すること。

修士1年生および2011年度大学院進学志望者へ

計画系修士1年生は必ず参加すること。

大学院計画系研究室志望者は、授業等に支障のない範囲で、中間発表を聞き、**研究室志望の参考**とすること。発表プログラムは別途掲示される。

また、中間提出の作品（論文・設計共）は発表まで展示されるので、よく見ておくこと。